

ラムサール条約勉強会

R A M S A R C O N V E N T I O N

「吉野川の恵みと人々の暮らしを考える」

「ラムサール条約(湿地条約)」は、人間をはじめ多くの生きものを支える「湿地」の保全と賢明な利用を推進する国際条約です。2025年4月現在、172国が加入し、2536か所の湿地が「国際的に重要な湿地」としてラムサール条約に登録されています。日本には北海道から沖縄まで、53か所のラムサール条約登録湿地があります。またラムサール条約には、湿地と密接な関係を有し、大切にしている都市を「湿地自治体」として認証する制度があり、新潟市、出水市、名古屋が認証されています。ラムサール条約登録湿地も湿地自治体も、四国地方にはまだ1つありません。四国を代表する「吉野川」は、下流域に発達した扇状地に「水都」徳島を形成し、多くの人々の暮らしの基盤を支え、多様な生きものの命を育んでいます。環境省のラムサール条約登録の潜在候補地にもなっている吉野川河口域と徳島市の「湿地」としての価値、その利用と保全についてラムサール条約の観点から考える勉強会を右記のように開催します。

「JiVaラムサール(湿地を楽しむ仲間たち)」は、経団連自然保護基金の支援を受けて、四国にラムサール条約の普及啓発をしているNGOです。

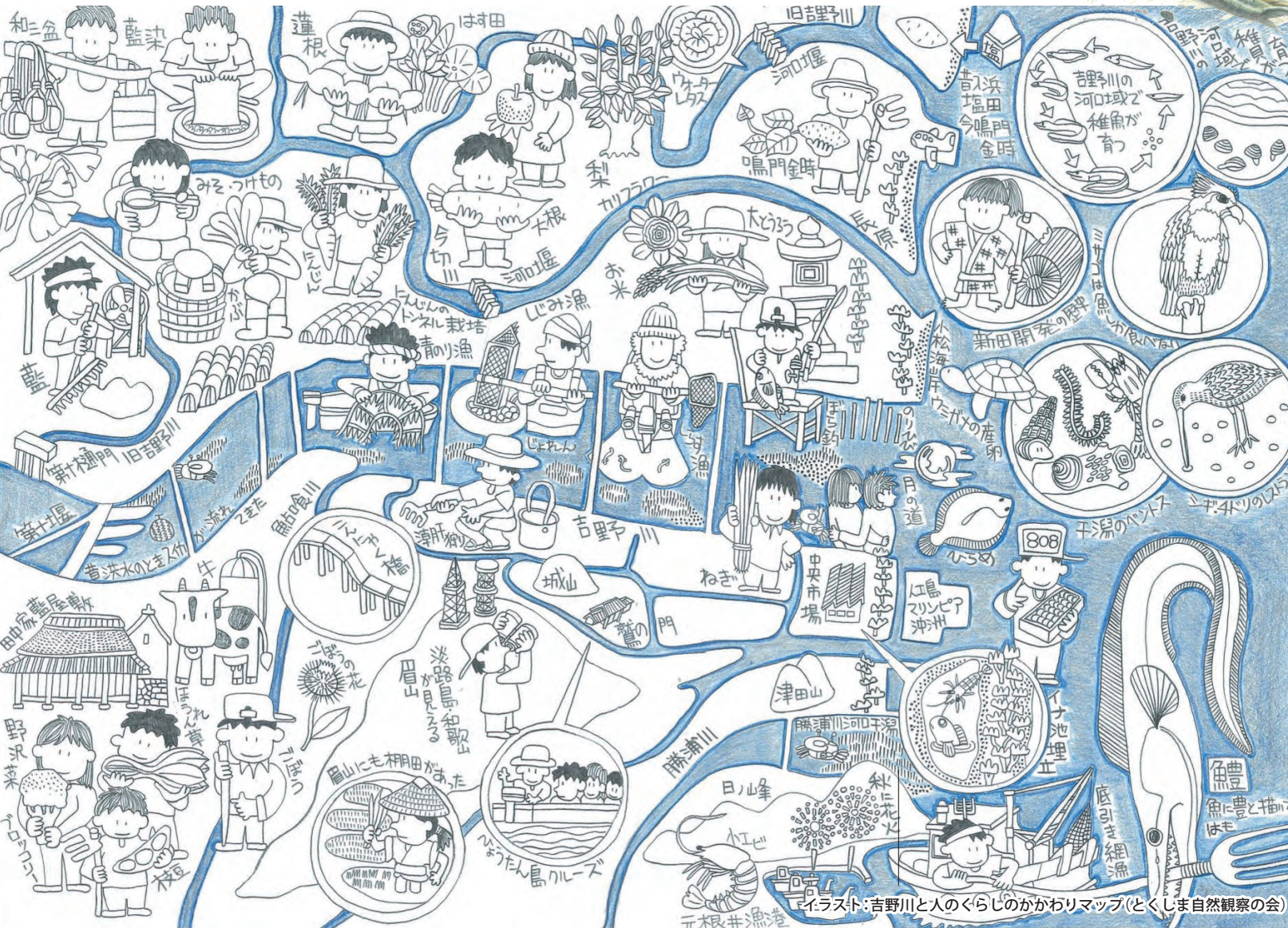


イラスト:吉野川と人のぐらじのかかわりマップ(とくしま自然観察の会)

日時: **5月10日(土)** 13:30~16:30

会場: とくしま県民活動プラザ 研修室

徳島市東沖洲2丁目14 沖洲マリンターミナルビル1階

※駐車場は、沖洲マリンターミナルビル北側の

県営「沖洲マリンターミナル駐車場」(有料)をご利用ください。

【申込不要／参加無料】

「ラムサール条約と『湿地自治体認証』」

・名執 芳博さん (JiVaラムサール会長)

「吉野川における人と生き物の暮らし」

・河口 洋一さん (徳島大学)

「吉野川河口は魚介類と漁業にとって大切な場所」

・上田 幸男さん (吉備国際大学)

質疑応答、ディスカッション

▶勉強会のあと、交流会(お茶会)にて、楽しく意見交換する場をもちたいと思います。当日参加大歓迎です。

[講師プロフィール]

●名執 芳博(なりよしひろ)

元環境省国立公園レンジャー。ラムサール銘路会議の準備室長(1990~1994)、野生生物課長(2003~2006)時代などに、条約登録湿地25カ所以上の登録に関わった。日本国際湿地保全連合前会長、日本鳥類保護連盟前専務理事、日本湿地学会顧問。2020年「JiVaラムサール」を設立し、現在まで会長。

●河口 洋一(かわぐちよういち)

福井市生まれ55歳、新潟大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了(博士(学術))、徳島大学理工学部社会基盤デザインコース准教授。徳島での研究も16年目をむかえ、森川海の生き物つなぐりと、人のなりわいに興味を持っている。

●上田 幸男(うえたけきお)

徳島市生まれ66歳、三重大学大学院水産学研究所修了、徳島県と(独)水産総合センター西海区水産研究所で勤務、R7年度から吉備国際大学農学部海洋水産生物学科客員教授、徳島の海とさかなと漁業を見つめたいと思っている。



〈主催〉とくしま自然観察の会

<https://shiomaneki.net>

〈協力〉JiVaラムサール(湿地を楽しむ仲間たち)

<https://jivaramsar.org/>

〈問い合わせ〉TEL 088-623-6783

Email : kansatsunokai@gmail.com